東京医科歯科大学　献体の会会報

けんたい

第49号

発行／東京医科歯科大学 献体の会
〒113-8519　東京都文京区湯島1-5-45　03-5803-5147
国立大学法人 東京医科歯科大学医学部臨床解剖学分野内

東京の雪　　撮影　橋本賢斗

目　次

会員の皆様へ東京工業大学との統合に関するご挨拶　東京医科歯科大学学長　田中雄二郎　2
ご挨拶　東京医科歯科大学医学部長　東田　修二　3
東京医科歯科大学病院長　藤井　靖久　4
《東京医科歯科大学関係行事》
解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式
追悼の辞　東京医科歯科大学学長　田中雄二郎　7
追悼の辞　学生代表　松井　瞳　8
東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会
ならびに東京医科歯科大学献体の会総会
令和五年度東京医科歯科大学解剖体追悼式
追悼の辞　東京医科歯科大学学長　田中雄二郎　10
来賓追悼の辞　歯科同窓会会長　浅野　正樹　11
学生追悼の辞　学生代表　古野満理佳　12
《篤志解剖全国連合会関係行事》
第四十七回篤志解剖全国連合会団体部会・大学部会合同研修会
ならびに第五十三回篤志解剖全国連合会総会　13
《会員寄稿》
【随筆】
健体を献体～誰が連絡者かな～　吉本　亮三　14
『Chipko』木を抱く　岡本　祐子　15
床嶋まちこ　16
【詩】
【短歌】　内田　敏行　16
津田　典男　17
【俳句】　真柄百合子　濱田裕紀子　17
【五行歌】　堀江　正人　中村　和子　18
【絵日記】　片桐千代子　18
【写真】　細川　利栄　渡邊トキ子　19
《解剖学実習を終えて》
学生感想文　20
コロナ禍をかいくぐってきた
学生達の感想文を読んで　広田　順子　24
《東京医科歯科大学献体の会会則》　26
《東京医科歯科大学献体の会役員》　27
《東京医科歯科大学大学からのお知らせ》　28
《会員のご家族へのお願い》　29
《会報作成にあたって》
◎表紙の写真説明　◎編集後記　◎連絡先　31

《会員の皆様へ東京工業大学との統合に関するご挨拶》

東京医科歯科大学
学長　田中雄二郎

東京医科歯科大学長の田中雄二郎でございます。

献体の会の皆様におかれましては、解剖体追悼式等で直接ご挨拶を申し上げたいところですが、令和二年からの新型コロナウィルス感染の拡がりにより、皆様に直接御礼申し上げる機会がございませんでした。改めまして、日頃より、医学・歯学教育ならびに医学・歯学研究に対して深いご理解と多くのご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

既にご承知の方もいらっしゃるかと存じますが、二〇二三年十二月十三日、国会において、国立大学法人法の一部を改正する法律が成立し、東京医科歯科大学は東京工業大学と統合して、二〇二四年十月一日に「国立大学法人東京科学大学」を設立することが正式に決定致しました。

両大学のこれまでの伝統と先進性を生かしながら、統合によってどの大学もなしえなかった新しい大学の在り方を創出していきます。これまでの両大学は、広く理工学および医歯学に関する学知と技術、それを自在に応用できる人材の育成を通して、産業の発展と医療の進歩をけん引してきました。一方、これまで想像し得なかった地球環境の悪化、新興・再興感染症、少子・高齢化など人類の直面するさまざまな課題の解決に向けて、大学はその知を結集し、より大きな役割を果たすことが社会から期待されています。

このため、両大学は統合して東京科学大学の設立を実現し、社会と共に活力ある未来を切りひらいていきます。さらに、統合法人および新大学となる東京科学大学におきましては、先駆的なガバナンスの下、外部からの資源獲得をいっそう進めるとともに、拡大した資源を高次に融合・活用して、学生・教職員の育成環境ならびに教育研究環境を飛躍的に充実させていきます。

東京医科歯科大学は、東京科学大学へと変わりますが、医学・歯学の人材育成を行う姿勢に何らの変わりはありません。本学は教育理念として「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」を掲げてまいりました。東京科学大学においても、献体の会の皆様のご厚意に少しでも報いることができるよう、医歯学教育を一層充実させ、医療人材の育成のために精進して参る所存です。

医学・歯学の教育・研究及び医療の進歩に対する深いご理解と寛容なお心に対して、改めて深甚なる感謝と敬意を表するとともに、末長いご繁栄とご多幸をお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

《ご挨拶》

東京医科歯科大学
医学部長　東田　修二

東京医科歯科大学医学部長を令和四年四月に拝命いたしました東田修二と申します。献体の会の会員の皆様におかれましては、東京医科歯科大学の教育と研究に対しまして、多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

東京歯科歯科大学は令和四年四月から「指定国立大学」になりました。指定国立大学とは、世界最高水準の卓越した教育研究活動を展開し、国際的な拠点となりうる大学として、文部科学大臣が指定する制度で、全国で十大学が、医療系に特化した大学としては本学が唯一、指定されております。また、令和二年からの新型コロナウイルス感染症の蔓延に対して、東京医科歯科大学病院は重症患者さんを都内の病院で最も多く受け入れました。テレビニュースなどで本学の活動を目にされた方も多いのではないかと思います。そして、重症コロナ患者さんの救命に寄与するとともに、診断や治療に関する学術的な知見を、論文などとして世界に発信しました。

これも新聞報道などでご存知かもしれませんが、二〇二四年秋に本学は東京工業大学と統合して東京科学大学となる準備を進めております。そうなりますと、「東京医科歯科大学 献体の会」の名称も変わることになろうかと思います。両大学が統合することにより、医学、歯学の専門家と、理学、工学の専門家が相互に連携し、両大学の先進性を活かした高度な研究をさらに推進することが可能となります。その結果、高い医療技術と研究心を持つ医師、歯科医師、看護師、技師などの医療人が育成されるだけでなく、幅広い見識を持った心の豊かな医療人にもなれると考えております。その結果として、世界の医学と医療の発展を牽引する大学となることを目指しております。

このような本学の発展という成果を得ることができましたのも、崇高なご意思のもと、献体していただきましたご遺体を解剖させていただきました医学生時代の教育と経験が、その源になっていることは言うまでもございません。あらためて心より感謝申し上げます。

さて、現代のコンピュータ・サイエンスが急速に発展する時代におきましても、人体解剖学実習は医学教育の最も重要な基本であることに変わりはございません。ご遺体のお一人お一人に血管や神経の走り方には個性がありますし、また、例えば心臓や肝臓などの立体的に複雑な臓器の構造は、教科書やパソコン画面上の平面的なカラー図や写真を見ただけでは到底理解できず、実際に、目と手と感覚を総動員して、人体とはどういうものかを自らの体で覚え込むことが重要になります。人体の構造は非常に複雑であり、精緻であり、巧妙であり、その一方で多様でもあります。

私も四十三年前に本学での人体解剖実習で、さまざまなことを学ばせていただきましたが、その時の状況は明瞭に記憶しております。現在、内科医師として、診察をするとき、採血をするとき、ＣＴ画像を見るときに、人体解剖実習で体得した臓器の構造や神経・血管の走行が浮かび上がってまいります。また、病院検査部長として、さまざまな検査を実施し、また、後輩を指導するにあたりましても、解剖実習で身につけた知識は重要なものとなっております。さらに、知識だけでなく、人体解剖実習の初日に、自分の班が担当させていただくご遺体に初めて対面しました時に、人間の崇高さ、特に、医学教育のために自らを提供していただいた深い志に胸が熱くなったことを現在も覚えております。人体解剖実習は人体の構造を理解するためだけの教育でなく、これから医学生として、さらには聖職たる医師として、生涯

を通じて学び、医療行為を実践していく心構えや精神を身につける礎でもあると考えております。

新型コロナウイルス感染症も令和五年一月をピークとする第八波がおさまり、五月には五類感染症に移行しましたが、この挨拶文を執筆しております七月時点で、新規感染者数は再び、ゆっくりと増加しており、今後も当面は感染が続くものと思われます。皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症に限らず、生活のあらゆる点におきまして、益々ご健康に留意されますよう、お願い申し上げますとともに、末永いご多幸をお祈りいたします。皆様の本学の医学教育へのご理解とご協力に対し、心より感謝を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

《ご挨拶》

東京医科歯科大学病院
病院長　藤井　靖久

二〇二三年四月より、東京医科歯科大学病院　病院長を務めております藤井靖久と申します。

献体の会の皆様におかれましては、平素より本学の医歯看護学教育および研究に対して多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

私は、一九八八年に本学医学部を卒業し泌尿器科医となりました。専門は悪性腫瘍（腎細胞癌、膀胱癌、前立腺癌）で、二〇一六年から腎泌尿器外科学教室（泌尿器科）の教授を務めています。大川病院長、内田病院長のもと四年間副病院長を務めさせていただき、本年四月に病院長を拝命いたしました。

今年還暦を迎えましたので、解剖実習をさせていただいたのは四十年近く前になりますが、医学生として最も印象深い実習で、今でもその時の厳粛な気持ちが蘇ります。当時は入学後二年間市川市国府台の教養学部で学びましたが、医学とはほぼ無縁で、私を含め多くの学生はクラブ活動などに熱中し学問的にはやや無為な日々を過ごしていました。三年生になって御茶ノ水に来てすぐに佐藤達夫教授のアカデミックな解剖学の講義に感動し、解剖実習に臨みました。初めてご遺体に触れた時、人間の生死の尊厳に直面したような厳かな気持ちになりました。毎回、解剖実習の最初に故人のご冥福を祈り皆で黙祷しましたが、自然に献体いただいた方に対する深い感謝の念を感じました。解剖実習を経験していくうちに、人体に対する興味がますます強くな

り、多くの学生が夜遅くまで熱心に行いました。ずっとご指導いただいた佐藤先生はじめ解剖学の教官の先生方はさぞや大変だったと思います。最近はバーチャルリアリティーなどの技術が大きく進歩し医学実習にも取り入れられつつありますが、解剖に関してはご遺体によるリアルな実習が今後も必須であると実感します。私は、泌尿器科外科医であったため、卒業後も、佐藤先生が出された「泌尿器科手術のための解剖学」などの本で勉強させていただきました。佐藤先生は、解剖体の鮮明な写真を使用した画期的な手術解剖の本を多くの外科領域で出され、私を含め日本中の外科系医師の手術の質向上につながりました。

私が学生の頃、全国的に解剖実習体が不足していたが、本学では献体の会のお力で半数以上が篤志献体になり、十分な解剖実習を行うことができるようになったというお話を聞きました。その後、献体の会の会員数はさらに増え、私が卒業後しばらくしてからは全て篤志献体による解剖実習ができる状況が続いているとのことです。心より感謝申し上げます。

当院は二〇二〇年から新型コロナウイルス感染症に積極的に対応し、困難な局面に対しても田中学長の「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」というキャッチフレーズの下で、職員全員が一致団結し、大きな力を発揮することができました。今後も当院は大きく変化し発展していきます。二〇二三年秋には「機能強化棟（C棟）」が完成予定で、新時代の救急医療と、ＩＣＵ、ハイブリッド手術室、ロボット手術室など高度先進医療を提供する新たな拠点となります。また本学と東京工業大学は二〇二四年度中を目途として統合し「東京科学大学（仮称）」という一つの大学に生まれ変わる予定です。医学と歯学のみならず理工学と融合することで研究力が高まるだけではなく、より高いレベルの医療を皆様に提供できると期待しています。

最後になりますが、明日の医学を支える献体という無償の行為をされている献体の会の皆様の崇高なご意思に深く敬意を表するとともに、末永いご多幸をお祈り申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

《東京医科歯科大学関係行事》

解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式

令和五年二月九日（木）、十日（金）の二日にわたり、東京医科歯科大学M&Dタワー二階の共用講義室一・二において、第三十九回東京医科歯科大学解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式が執り行われました。今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮し、参加されるご遺族に対しては、二日間の午前・午後に分けてご来場いただき、教職員も限られた者のみが参加しました。

「春は名のみの風の寒さや」と唱歌「早春賦」の一節が思い浮かぶほどの厳しい天候に、建物の廊下もしんしんと冷えています。その中を一組、また一組と防寒服のご遺族が進んでいきます。要所に待機する大学職員がご遺族を二階の控え室に導きます。そこは階段教室と呼ばれる特別な講義室です。高さ百二十五メートルの超高層ビルであるM&Dタワーは二〇〇九年の完成以来、大学のシンボルタワーとなり、国内外の研究者を迎えての講演や議論がこの階段教室を舞台に行われています。受付を終え、慌ただしさも落ち着いて準備が整った頃合いをみて、職員がご遺族に隣室の式場を案内します。

式場の入り口には「御遺骨返還式及び感謝状贈呈式　式場」の白い看板が立てられ、その下には、白、桃色、薄紅色のカーネーションがあふれんばかりに飾られています。式場の正面には祭壇が設置され、両側には胡蝶蘭、ピンクの薔薇、オリエンタルリリー、黄色、薄紫、桜色、紅梅色の花々が生けられています。花に囲まれ、そこだけが別世界であるかのように、式場は厳かな空気に満ちています。祭壇の上には献体成願者のお名前の札が貼られ真白な布で包まれた御骨箱が据えられています。案内する職員の、前へどうぞとの声に、ご遺族が祭壇の前に並び、代表が前に進みます。全員が御骨箱に深く一礼した後、祭壇の向こう側に立つ教員が献体成願者のお名前に続いて、文部科学大臣感謝状を読み上げます。次いで、御骨箱を捧げ持ち、ゆっくりと祭壇の前に回って姿勢を正し、ご遺骨を返還いたしますと述べ、白手袋の教員の手からご遺族代表の手へと御骨箱が受け渡されます。その後、職員が御骨箱を濃紺の専用バッグに収めて渡します。バッグの長い持ち手を肩にかけ、体の正面に御骨箱をもってくると、ちょうど両手で抱えるように持つことができます。

一家族ごとに行われる式では、ご遺骨の返還は故人との水入らずの再会の場にもなります。しばらくは家で一緒に過ごしたいとおっしゃるご家族もあり、また、故人の希望が叶ったことに思いを馳せるご家族もありました。

式場に安堵の思いがゆっくりと満ちる中、御遺骨返還式及び感謝状贈呈式は滞りなく終了しました。

追悼の辞

東京医科歯科大学
学長　田中雄二郎

この度は、本学のより良き医療人、知と癒しの匠育成の為にご献体くださいました方々のご遺族の皆様に大学を代表して御礼を申し上げます。

本来であれば、ご遺族の皆様に、直接ご挨拶を申し上げたいところですが、いまだに猛威を振るう新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、郵送でのご遺骨の返還または規模を縮小したご遺骨返還式を開催させていただくこととといたしました。

さて、今日の医学・歯学の進歩は目覚しく、様々な領域で新しい知見が集積し、その上テクノロジーの進歩と相俟って、新しい医療技術が開発され、人々の健康と社会の福祉に大きく寄与してまいりました。

しかし一方では、ヒトの生命そのものに携わる医療人には、今まで以上に社会的責任や医療倫理が問われております。

医学生・歯学生が専門課程に進み、ヒトのからだに直接接する最初の経験が、人体解剖学実習であります。

ご遺体を通して人体の構造や機能の基礎を学びつつ、生命とは何かに思いを馳せ、その神秘性と尊厳に触れることになります。

まず学生は戸惑い、畏れを感じることになりますが、やがて奇跡とも思えるその精緻な人体の構造を知るにつれ、これまで経験したこともない生命に畏敬の念を抱くことになります。

同時に、自らの御身体を医学・歯学の発展のためにささげるという、献体という行為が如何に崇高なものであるかを感じ理解することとなります。

そして、そのことに心から感謝しつつ、医療人としての教養と感性を研ぎ澄ましてまいります。

医学の進歩とともに、医の倫理・生命倫理が強く叫ばれておりますが、解剖学実習に献じられたご遺体は無言のうちに「医の倫理とは何たるか」を学生に語りかけてくださっているのであります。

結びに、献体という崇高なご遺志を尊重し、今日までご遺体を私どもに委ねて下さいましたご遺族の皆様の寛大さと寛容に深く感謝の念と敬意を捧げる次第であります。

私ども医学・歯学教育に携わるものならびに学生たちは皆様のこの尊いお気持ちを本日さらに深く胸に刻み込んでまいります。

ここに、医学・歯学の教育・研究・臨床の発展のために一層の精進を重ねることをお誓いするとともに、ご献体下さいました方々のご冥福をお祈りしつつ、深甚なる感謝を込めて私の追悼の言葉とさせていただきます。

追悼の辞

東京医科歯科大学　学生代表
歯学部歯学科　二年　松井　瞳

はじめに、ご遺骨返還式にあたり、ご献体してくださった方々並びにご遺体を私たちに預けてくださったご遺族の方々に深く感謝の意を表し謹んで故人に哀悼の意を捧げます。

医療人になるための教育の一環としてご遺体と向き合わせていただいた学生の一人として、私自身が実習を通して感じたことや考えたことについてこの場をお借りして述べさせていただきます。

実習を通して、私は人生で初めて「いのち」を預かるという経験をしました。その「いのち」とは、名前も知らない、どんな生活を重ね、どんな人生を送ってきたかも分からない人の「いのち」でした。しかし、この実習で出会った「いのち」は、私の人生の中で決して忘れることのできない特別な存在となりました。なぜなら、医療人になるという自覚を持たせてくださった唯一無二の「いのち」だからです。

実習初日、緊張と不安の中向かった実習室に足を一歩踏み入れた時、そこに流れる空気は想像を超えるもので、一気に背筋が伸びる感覚がありました。その時から、私の医療人としての第一歩が始まったように思います。これまで教科書や参考書で見てきた構造物一つ一つは物体という認識でしたが、実習を進める中で、その認識が強烈なほどに覆されていく感覚がありました。それはつまり、実習で向き合うのは、物ではなく人であるということです。様々な血管や神経は複雑に走行し、その走行一つにしてもそれら全てに意味があるのだということを感じました。その一つ一つの意味を理解することができたのは、机に向かって勉強するだけでは不可能で、ご遺体に向かって実際に自分の手を動かし、他でもないこの自分の目で見ることができたからだと思います。これは、ご献体してくださった方々とそのご家族のおかげであるということを改めて思い返しました。また、複数のご遺体を同時に拝見すると、一つとして同じ部分はなく、改めて人には「一般的に」や「普通」という概念は存在しないんだと強く感じさせられました。その違いは同時にお一人お一人がそれぞれの人生を力強く生きられたことを意味し、ご遺体そのものが、その人が生きてきた証だということを感じました。

私は、将来歯科医師になります。歯科医師になれば、口腔を中心に診察をしたり治療をしたりすることになります。しかし、実習をする中で、口腔は全身と密接に繋がっており、また口腔も体の一部であるという当たり前を突き付けられました。実習を終えた今、歯科医師として口腔内のプロフェッショナルになることはもちろん、私は一人の医療人として医学の知識も備えた上で人々の全身の健康を支えたいと強く思うようになりました。

実習最終日は、いつもより実習室の時計の針が進むのが早く感じました。実習時間終了まで目一杯まで実習をしても、実習をやめたくない気持ちになりました。それは、私たちにとって数ヶ月向き合ってきた大切な人とのお別れを意味していたからです。最後の黙祷の時、私のこころが熱くなり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

「ありがとうございました」

聞こえていないかもしれないけれど、きっと届いていると思いました。

初めて預かった「いのち」は、私たちの記憶とこころの中で生き続けます。これから医療人として、ご献体してくださった方にいつでも胸を張れるように努力を怠らずに日々精進したいと思います。

末筆ながら、ご献体してくださった故人の方々に心より哀悼の意を捧げ、ご遺族の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げて、追悼の言葉

とさせていただきます。ありがとうございました。

東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会ならびに東京医科歯科大学献体の会総会

新型コロナウイルス感染症（ＣＯＶＩＤ－19）の感染拡大の状況を受け、開催を中止することにいたしました。また、本年度も東京医科歯科大学献体の会現況報告といたしまして、令和四年度の献体の会の活動状況を、会員の皆様にお送りいたしました。来年度につきましては、開催を検討しております。

令和五年度　東京医科歯科大学解剖体追悼式

令和五年十月二十六日木曜日、午後一時より、築地本願寺において、東京医科歯科大学解剖体追悼式が行われました。今年度も、新型コロナウイルスの感染防止対策として、来賓、学内関係者および医・歯学部学生のみの参列による開催となり、追悼式の様子はインターネット上でライブ配信されました。

はじめに、誓願成就された二九九柱（病理解剖・法医解剖含む）の氏名が奉読されました。そのお名前は、お一人おひとりの人生の象徴であり、参列者は、今は旅立ってしまった方々の人生に思いを馳せました。

全員で黙祷を献げた後、東京医科歯科大学学長の田中雄二郎先生より、「東京医科歯科大学は来年に東京工業大学と統合し、医学・歯学のさらなる発展を目指す」ということを含む、追悼の辞が述べられました。続いて歯科同窓会会長の浅野正樹先生より来賓追悼の辞が、学生代表の歯学部歯学科二年生の古野満理佳さんより学生追悼の辞が述べられました。

その後、学長、理事、来賓、式委員、教職員、学生の順に、参列者全員が献花を終えた後、閉会となりました。

続いて、本願寺のご厚意による追悼法要が行われました。浄土真宗本願寺派の作法によるお焼香を参列者全員で順番に行い、築地本願寺宗務長の中尾史峰様より阿弥陀如来に関する「仏様のお話」をいただき、午後三時ごろに終了となりました。

追悼の辞

東京医科歯科大学
学長　田中雄二郎

本日ここに、国立大学法人東京医科歯科大学解剖体追悼式を挙行するにあたり、解剖学・病理学並びに法医学解剖に、ご遺体を捧げてくださいました二九九名の方々に対し、謹んで哀悼の意を表すると共に深い感謝の念を捧げるものであります。

本来であれば、ご遺族及び献体の会の皆様に、この築地本願寺にて、直接ご挨拶を申し上げたいところですが、新型コロナウイルス感染症対策として皆様の安全を第一に考え、今年度も学内関係者のみでの開催とし、本式典の様子はＷＥＢにて配信させていただくこととといたしました。

人体解剖学は、医学・歯学の次世代を担う医療人の育成に当たって誠に重要な意義を持っております。

解剖学実習では、学生はご遺体を通して人体の構造や機能の基礎を習得しつつ、初めて、死という逃れようのない生命の尊厳に直面します。これを機に、学生は「自分自身が快適に生きたい」という受動的・利己的な意識から、「自分以外の人が快適に生きるために」という能動的・献身的な思念に変わり、自分たちは「世のため人の為に医学・歯学の道で研鑽を積むのだ」と、医療人としての決意を新たに、学んでいくことになります。

病理解剖では、担当の医療チームが現代医学の叡智を駆使し、全力を挙げて治療に臨んだにもかかわらず、効を奏さず、ご遺族の　願いも虚しく、帰らぬ人となったご遺体を解剖させていただきます。ご遺体より提供された病巣や臓器の精査と治療結果から知り得る新しい知見は、同じように悩む他の大勢の患者さんの治療あるいは発症予防に役立てることができる貴重な示唆を与えてくださいます。

また、法医学解剖は、黙して語らぬご遺体の死因を特定し、時には犯罪性の有無を明らかにして、社会の秩序の維持に役立つものであります。

このように、それぞれのご遺体は、それぞれの立場で医学・歯学の進歩に光明を投げかけて下さり、そして人間教育の上で、何ものにも変えがたいご教示をいただき、学生を啓発してくださいます。

医学・歯学の発展のためとはいえ、自らご遺体を献体される崇高純粋な精神、そしてご遺族の示される深いご理解とその寛容なお心に、私どもは改めて深甚なる感謝と敬意を表する次第です。

既にご承知のように、本学は東京工業大学と統合し来年度東京科学大学としてさらなる発展を目指しますが、心を新たにし、一意専心医学・歯学の教育・研究に一層の精進を重ねることを、固く誓うものであります。

東京医科歯科大学は、菊薫る本日、ご遺族並びに献体の会会員の方々、そしてご来賓の皆様とともに、ご献体を賜りました故人の方々を偲び、ここに謹んで追悼の辞といたします。

追悼式会場の築地本願寺

会場

法要

来賓追悼の辞

東京医科歯科大学
歯科同窓会会長　浅野　正樹

本日ここに国立大学法人東京医科歯科大学の解剖体追悼式にあたり、追悼の言葉を述べさせていただきます。

私たち医学・歯学を志した者は、その教育・研究・臨床に際して捧げられましたご献体に対して謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご理解あるご遺族の方々に心よりお礼と感謝を申し上げます。

振り返ってみますと医学部同窓生・歯学部同窓生は東京医科歯科大学に入学して最初に感動と興奮を覚えるのが、解剖学の講義と実習でした。

その際に、教授をはじめ医局員の先生方より、懇々と解剖体の尊さとご遺族の方々の並々ならぬご理解があってこそ、今ここに解剖実習にあたることができるということを、常に念頭に置くようにと諭されました。

日本に限らず世界の医学・医術の進歩発展は、解剖学なくしてあり得ません。

素晴らしい医学医療の技術は特にこの半世紀、大きな変革をもたらしました。

振り返って見ますと、過去にはエイズやエボラ出血熱、また現在では世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス、これらを始めとする重篤な感染症、或いは治療法の確立していない病のために、多くの人が痛みに耐え、そしてお亡くなりになっております。その解明にも、ご理解あるご家族のもと、献体が重要な役割を果たしていることは申すまでもありません。

法歯学の面から見ますと、歯学には口腔解剖学がございますが、この歯牙を中心とする口腔内組織の解剖学が、法医学におけるＤＮＡ鑑定などとともに身元不明人の割り出しや事件の解明に大きく役立っておりますことは、多くの方々の周知の事実であります。

一九八五年（昭和六十年）、群馬県御巣鷹山に日航ジャンボ機が墜落し、多くの尊い命が失われましたが、その時の遺体の身元確認作業に群馬県歯科医師会の会員が総出であたったことは良く知られているところです。それを契機として全国的に「警察歯科医会」が結成され警察当局と連携し、色々な方面で活躍しています。

また、二〇一一年（平成二十三年）三月十一日の東日本大震災において多くの方が亡くなり、いまだに行方不明の方々がいらっしゃる中、岩手、宮城、福島三県の歯科医師会の会員を中心として全国から歯科医師が集まり、解剖学で学んだ経験を活かし身元不明の方々の確認に奔走し、その功績が認められ表彰を受けました。

このように医学全般の教育・研究のみならず、解剖体とその御心は多くの国民の方々に役立つとともに将来の人間の存在価値に関する身体・精神に崇高なる考えを浸透していくことと思われます。

今後も、いかに科学の進歩発展がありましょうとも、このような考えが基本にあるのが医学であり、医療に携わる者は常にこのことを肝に銘じて、努力をしなければなりません。

本日ここにご遺体となられた方々にあらためて哀悼の誠を表しますとともに、ご遺族の方々、献体の会の会員の方々のご協力、さらに東京医科歯科大学のお心遣いに衷心より感謝申し上げまして追悼の言葉とさせていただきます。

学生追悼の辞

東京医科歯科大学 学生代表
歯学部歯学科二年　古野　満理佳

まず初めに、ご献体してくださった方々、並びにご遺体を私たちに預けてくださったご遺族の皆様方に、東京医科歯科大学の学生を代表しまして心より感謝申し上げますとともに、故人の方々に対し謹んで哀悼の意を表します。

私自身の話となりますが、以前小児の難病を研究していた際、自分の眼で見て人と触れ合いながら学ぶことの大切さを実感していました。難病の子供たちやそのご家族と接したときにはじめて、教科書にも論文にも書かれていない事実を目の当たりにし、これこそが見落としてはならないことなのだと深く感じました。この経験から、私は今回の実習でご献体と接しながら学ぶということについて、緊張しながらも、良い学びにしようという希望と覚悟を持ちながら臨みました。授業などを通して学んできたつもりではありますが、実際にご献体と接して学ばせていただくと、まだまだ学び足りないと気づかされることが多かったように感じます。どのような立場になっても自ら学ぼうという姿勢が大事であること、そして学びというのは教科書だけでは完結しないということをひしひしと感じられる実習期間でした。改めて、学びの機会を提供してくださったみなさまに深く感謝申し上げたいと思いますと同時に、今後も学び続けていきたいと強く思います。

実習中はご献体の人生などに思いをはせる瞬間もございました。どのような人生を送ってこられたのだろうか、どんなことが得意でどのような表情で周りの方と接してこられたのだろうか、気づけばそのようなことをふと考えていました。その答えを知ることは残念ながら私たちには難しいことかもしれませんが、どんな人にもそれぞれの素敵な人生があるということを実感しました。将来、医療従事者として患者さんと接する際には、この気づきを忘れずにいたいと思います。

人体解剖学実習は、解剖学という学問だけでなく、医師、歯科医師として必要な倫理観を学ぶ機会でもあったと確信しています。医学、歯学は日々進歩し続けており、患者さんに対して最も良い医療を提供するためにも、私たちは常に向上心をもって学び続ける必要があります。また、医師、歯科医師が人の命を預かる職業であるということを自覚し、患者さんひとりひとりに対して向き合うことが私たちの使命だと感じています。本日このような式典を迎え、私たちの実習がこれだけ多くの方々の支えのもとに成り立っているのだと強く実感しております。改めまして、このような機会をいただけた事に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、ご献体してくださった故人の皆様を偲ぶとともに、ご遺族の皆様のご健勝を心から念じ申し上げまして、追悼の言葉とさせていただきます。

学生による献花

学生による焼香

《篤志解剖全国連合会関係行事》

篤志解剖全国連合会
第四十七回団体部会・大学部会合同研修会ならびに第五十三回総会

令和五年三月十七日、仙台市の東北大学星陵キャンパス星陵会館にて、篤志解剖全国連合会第四十七回団体部会・大学部会合同研修会ならびに第五十三回総会が開催されました。また、同時にＺＯＯＭを用いたＷＥＢ方式でも開催され、現地、ＷＥＢ合わせて全国から五十八大学、三十五団体の百九十五人の参加者がありました。

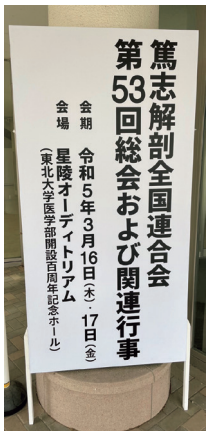
団体部会・大学部会合同研修会は、八木沼洋行 篤志解剖全国連合会会長の会長挨拶で始まりました。

講演に先立って、献体事業に多大な貢献をされた東京歯科大学理事長の井出吉信先生に、佐藤達夫日本篤志献体協会会長から第十四回篤志献体賞が授与されました。

今回の団体部会・大学部会合同研修会は、「献体の信頼回復に向けて」というテーマで行われ、二人の講師の講演が行われました。講演の第一は、日本解剖学会理事長／北海道大学解剖発生学教室教授の渡辺雅彦先生から「解剖体の適正な管理に向けて」、講演の第二は、篤志解剖全国連合会副会長／明海大学歯学部解剖学・組織学分野教授の天野修先生から「アンケート調査からみる献体実務の状況と問題点」と題して、近年発生した解剖体の取り扱いに関する事案を用いて、その現状と問題点についてのお話、および議論が行われました。

その後、続けて総会が行われました。総会は、天野修 篤志解剖全国連合会副会長の司会のもと行われ、三ツ林裕巳 衆議院議員、羽生田俊 参議員議員などの挨拶（メッセージ）や、篤志解剖全国連合会の理事選出結果の発表、令和四年度会務報告、収支決算承認などについての報告、協議があった後に、会は無事に終了しました。

次回は沖縄県の琉球大学にて開催予定をしております。



《会員寄稿》

【随筆】

健体を献体
～誰が連絡者かな～

３９４１　吉本　亮三

《会員の家族へのお願い》が本会報に掲載されており、また大・小の「献体登録証」にも会員が亡くなった時は、大学と連絡と打合わせをとされているが自分は具体的に検討したことはない。

数年前、献体の会総会の質疑回答で、女性会員より質問があった。「娘と同居しているが、ちょっと諍いで疎遠となっている。献体もお墓も決めているので『成願』の際、病院よりの遺体搬出、遺骨のお墓への『納骨』等をやってもらえるか?」回答では「個々の事情に如何ようにも対応する。諸事情を献体事務室に知らせておいてほしい。」であったかと思う。

私が献体登録して二十余年となる。この間世界も国内も政情、地球温暖化による環境変化、近年の新型コロナウイルス感染症のパンディミック、そして急速に進むマイナンバーカード、スマホ普及、人工知能、チャットGPTの情報化等々状況は変わりすぎている。

気づけば自分も人生の最終楽章、末期高齢者となっている。死を取巻く周辺環境も登録当時とは様変わりしてきている。人口減、少子高齢化、核家族化、多死、孤老、老老世帯等々、社会経済情勢は大幅に変革してきている。更に人生の閉じ方、閉じた後の在りようも大きく変革してきている。登録者であるわが身について整理して連絡者と協議しておく必要がある。そしてエンディングノート等に項目を設けて記載して、配偶者及び子供達と打ち合わせておくことが必要であろう。

私は配偶者との二人暮らしであり、関連記事をスクラップしたり、立教セカンドステージ大学で「死生学」を受講したり、関連講演会に参加したりしてきている。献体登録して以来「生き方」「逝き方」を話したり、エッセイにまとめたりして、関連ファイルは数冊となるが系統立てての整理はできていない。

私の献体登録は平成十三年八月八日である。献体登録同意者は配偶者と二人の子、と姉、弟、妹であった。「献体登録証」大・小がある。大は、自宅用登録証で居間に、小さい方は携帯用登録証で外出時には身につけている。登録後の平成二十二年五月一日年住居表示変更の届出をして大・小登録証は新しいものとなっている。なお、献体登録同意者の姉と弟が逝去しているが未届けである。

大学担当者と遺族の代表者との打合せも事項も検討して記録しておこう。

①大学が遺体を迎える日時
　⇑死後二十四時間～四十八時間
②大学が遺体を迎えにあがる場所
　⇑大学から四十キロメートル以内
③お棺の要否
④代表者の氏名、住所、電話番号
⑤「解剖に関する遺族の承諾書」
⑥その他・・通夜、告別式の実施

（遺骨は本郷の「堂内陵墓」を永代使用することとしている。遺骨が返還されたら納骨する）

一応項目は整理したが、具体的に未確定な事柄が多いので再調整が必要である。①②については仮定条件下で大学から四十キロメートル以内の自宅以外の高齢者施設入居の検討も必要か？

葬儀は家族葬でと考えるが葬祭場は決めてない。決めたい。早々に課題を整理して連絡者（配偶者）と打ち合わせして、記録し必要に応じて修正し家族に連絡することとしよう。

すべきこと、出来ることを確認して整理して、健康に生き、健康に逝こう。

（令和五年六月三十日）

🌲『Chipko』木を抱く🌲

5239　岡本　祐子

無理な希望を抱くこと
そして何よりも信じる力が大事
一本の木は　ひとつの声
守られながら守りたい
みんなのたからものを
いつの時代も未来へつなげたい
みんなさんと一緒に

【詩】

老いゆく母

6085　床嶋　まちこ

歳を重ねていく母の姿が浮かんでくる
母は高齢になってもノリが良く
「もう歳だから」などと拒まなかった
「やったことがないから」などと言い訳もしなかった

三味線をやってみないかとさそわれれば
三味線を買って練習に励み
絵手紙はどうかと声を掛けられれば
パレットや顔彩を用意して教室へ通った
民謡をやってみないかと肩をたたかれれば
歌はまるで駄目にもかかわらず
仲間に加わって声をはり上げた

人の面倒をよくみて
周りの方々に感謝を忘れなかった
母の日や誕生日に贈り物が届くと
間髪入れずお礼状を認めた

新聞には隅々まで目を通し投稿もした
心に残ったことは欠かさず日記に記した
笑顔を絶やさずよく笑い仲間と交流した
旅行好きで国内はもちろんたくさんの国へ出掛けた

撮影　石井孝昌

娘たちに
「ああしなさい」「こうしたほうがいい」と指図せず
ただ黙って自分の背中を見せていた
眉間に縦皺を刻むこともなく
晩年まで穏やかな表情を崩さなかった

百点満点かというと丸っきり逆で
母は様々な面でしくじりや失敗を繰り返した
その不器用な生き様は
娘がそっくり受け継いでいる

【短歌】

4936　内田　敏行

一．老いてなお　読みたき書は　数あれど
　思うは余命　時惜しむなり

二．相模灘　西風吹けば　映える富士
　されど荒波　ヨットの雄姿

【短歌】

4963　津田　典男

一．シーボルト「あやめ」持ち出し改良す
　ジャーマンアイリス四方に咲くなり

二．くろもじのむらがり生ゆる生駒山
　ようじ作りてなりわいとする

三．てつせんの紫ふかくのぼり咲く
　床の間かざり池の辺にしだる

四．そのかみに貴人の庭かざりたる
　ゆうすげあまた四方に咲くなり

五．白梅の枝にからまりてつせんは
　紫ふかくあでやかに咲く

【俳句】

988　真柄百合子

野茨に春愁の顔見られしか
憶測をめぐらす時に茗荷の子
樟若葉影の祭りの上にかな
合歓の花遠ざかる時雲になり
独りきりの食事に慣れて山葡萄

【俳句】

5075　堀江　正人

ともらいの
あおいひかりが
ほしぞらへ

撮影　原　佑輔

【俳句】

6277　濱田裕紀子

一．青空に新緑のこと杖をつく

二．土むれの木の根の廻りすずめたち

三．ツツジ咲く山燃ゆる五月晴れ

四．陽春の光のどけきろう梅の

撮影　陳　菲

【五行歌】

1304　中村　和子

一．あなたに出合えて
本当によかった
ときにはケンカもしたけど
ついには二人で笑ったね
思い出たくさんありがとう

二．寂しくなったら
空の雲を見上げてごらん
―ホラ！
仲よくふわり、ふわりと
楽しそうにうかんでいるよ

三．ご近所から梅をいただいた
青々とした大粒だ
今年の梅仕事の開始だ
亡母のしわくしゃ顔が
何故かとてもなつかしい

撮影　橋本　賢人

【絵日記】

5853　片桐千代子

仏・ボーヌ施療院（一四四三～）

立派な建物だけではなく、内部の看護、介護への志の高さに敬服。フランスの地方はぶどうとともにこういう文化も育てた…。

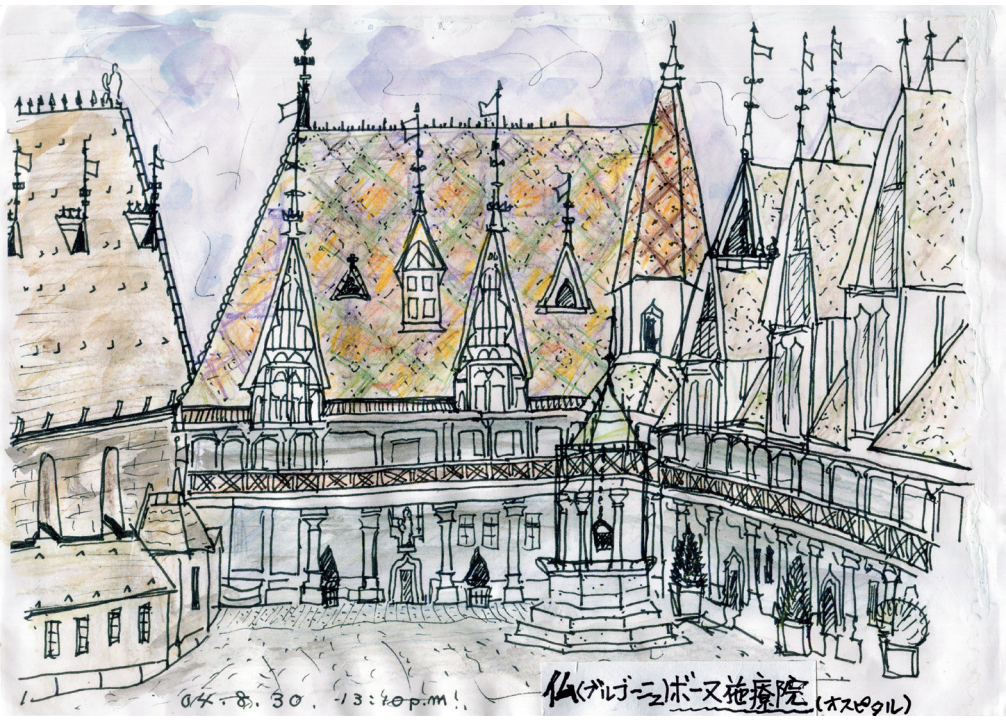
献体の会会員の皆様には、個々にＰＣなどを通じて（又は、百科事典などが役立つ）ボーヌのオスピタルについて、詳しく、深く、カラー写真と共に調べていただきたく思いますが（ボルドーオスピタルは”ワイン“の説明に進んでしまう欠点があります。オスピタルは世界有数のワイナリーでもあります）。

これは、慈善活動家の（一四四三～）ニコラロランとギゴーヌドサリンが（どちらかの妻の懇願を受け）全財産を投じて貧しい人々や老人のための施設を設立したものです。（内部見学しましたが…信じられない程の後期高度…貴族の館とまがうほど…医療の病院、介護の最高の施設、人材的にも最高のレベル…）。

①ゴシック建築様式のファサード（下図）、色鮮やかなモザイク模様の瓦屋根②病院と思えない程の超豪華な芸術的な病室、看護室③芸術品、美術品を展示する美術館④中庭⑤さらに現代につながる研究棟…。ほぼ半日を過ごしました（今回も二ヶ月の仏を中心とした、独他の近隣の国々の一人自由気まま旅でしたが、…有名観光地を上回る感動でした）。⑥ワインのほうが今は有名かもしれませんが、現在は全長数百メートルのセラー…（こちらの方に力が入っているようで、ＰＣ検索はこちらにいってしまう）。ワインの売上げと慈善活動の後援によって施療院の経営が成り立っているというのも、仏のすごさだと

敬服しました。

皆様にも、ワインと慈善による、文化の成立を感じていただければと願っています。



【写真】

「雨の渓流にて」　5731　細川利栄

6296　渡邉トキ子

《解剖学実習を終えて》

学生感想文

※「東京医科歯科大学臨床解剖学分野」のホームページにて、令和五年度の医学部医学科および歯学部歯学科の学生感想文を公開しておりますので、ご覧ください。

人の体の不思議と尊さ

医学部医学科二年　實村　研

解剖実習室にてありがたいことに人体解剖をする機会があった。目の前の台に置かれた、献体してくださった方はとても冷たかった。しかし、見ただけでは生死の区別がつかないくらい安らかであった。いざ体にメスを入れるとき、最初はとても緊張した。メスの切れ味がとても鋭く、そこに一番驚いた。皮膚を剥いで、筋肉や臓器を剖出していくうちに、人の体の複雑さ、特殊さにとても驚いた。解剖実習と並行して、解剖の講義動画を視聴したり、解剖の単語を覚えていたりした。そのため、人の体の構造について少しはわかった気になっていた。

しかし、実際の解剖では臓器のサイズや位置も見本とはかなり異なっていて、自分が思っていたよりもとても難しくて進度が遅くなった。人の体は人それぞれ多様な構造をとっているんだなと改めて感じた。

今回の解剖実習を通して一番思ったのは、人の生と死は隣り合わせなんだなということだ。臓器や筋肉は生きている人と何も変わらないのに、生きていないというだけで冷たく硬直してしまっている。献体してくださった方を解剖して改めて命の重さを感じることができた。

解剖学実習を終えて

医学部医学科二年　松本　尚樹

解剖学実習の感想を述べる前に、まずは献体してくださった方々とその遺族の方々に厚く感謝を述べたいと思います。皆様のご厚意無しには、この非常に貴重な経験は得られませんでした。

実習に臨む前には教科書などを見ながら講義を受けましたが、実際に遺体を解剖すると、自分が平面図から想像していた構造と、実際の人体の構造には乖離があることを実感しました。組織の階層や順序は覚えて臨みましたが、その厚さ、深さ、広がりは実際にこの目で見て初めて理解できるものでした。

また、実習が始まる前は、解剖学実習は教科書で描かれた構造を確かめる作業だと思っていました。そのため病気のないご遺体ほど勉強になると思っていました。しかし今思うのは、病気や変異があるご遺体から学べることは非常に多いということです。正常な組織と質感が全く異なることを知ることができました。治療の跡からどのような手術がなされたのか不思議に思う場面もありました。今後の勉強で理解できるようになりたいと思わせてくれるものでした。

貴重な経験を今後の勉強に活かし、良い医師になれるよう一層精進したいと思います。ありがとうございました。

解剖実習を終えて

医学部医学科二年　ウムルベク　ツグゾルマ

はじめに、献体してくださった方々、ご遺族の方々に解剖実習という貴重な機会を与えてくださったことに深く感謝申し上げます。

二年生になり、本格的に医学を勉強していく中で始まった解剖実習でしたが、始まる前は、自分に務まるのだろうかという不安がありました。しかし、献体をしてくださった方々、遺族の方々が私たちを信じ、託してくださったので誠心誠意、積極的に学んでいく姿勢が大事だと気付きました。実習を行う中で、実際の体の構造は、教科書や本で描かれているものとはかなり異なることに驚きました。教科書を見て学んだ気になっていたものが、解剖実習を通じてより理解が深まりました。また、人の体の構造、機能の精密さを目の当たりにし、生命の尊さを強く実感しました。

解剖実習が始まる前は「医学」や「医師」という職業は、漠然としたものでしたが、実習を終えて、自分はこれから人の命とかかわってゆくのだという実感と責任感がわき、心が引き締まりました。献体をしてくださった方々、遺族の方々が私たち医学生の未来を信じ、提供して頂いたこの体験を胸に、人々の幸福に貢献できる立派な医師になれるよう、日々精進してまいります。

解剖学実習から得たもの

医学部医学科二年　野溝　直澄

解剖学実習を終え、三ヶ月の実習期間で自らの意識が随分と変化したことを実感しています。

完璧に予習したつもりでも上手く解剖できない、勉強したつもりでも知らない知識と出合う、でも諦めれば進歩はないから頑張る。この繰り返しからより勉強に励むようになり、気づけば休日も必死で勉強している自分がいました。勉強は習慣化し、少しずつ理解が進むことに喜びを感じられるようになりました。

初めてメスを握りました。自分の中の医師のイメージに少しずつ近づいているという実感が湧きました。ご遺体に触れることで、医師の仕事が人の命に直結することを再認識しました。まだまだ医師の卵にすらなれていない段階ですが、このような意識を持てたことは、今後の成長につながると確信しています。

解剖学実習で身につけた医学の勉強に対する粘り強い姿勢と、より強く感じた医師になることへの責任感を忘れずに、今後の勉学に一層励みます。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

解剖実習で得た学び

歯学部歯学科二年　中桐　美晴

献体に協力して頂いた方々とそのご遺族の方々、非常に重要な学びの機会をくださり本当にありがとうございました。解剖実習の二か月間の学びはご遺体との向き合い方と、解剖をすることの重要性を学べた印象深い時間でした。

初めてご遺体と向き合ったとき、これまでの人生では感じたことのない責任と緊張を感じました。解剖の教科書には、人としてご遺体とどう向き合うべきか書かれていませんが、解剖実習を通してそれを学ぶことができたと思います。また、解剖をすることの重要性も実習を通して学ぶことができました。解剖実習を始める前、私はデジタル教材の充実したこの時代に、なぜわざわざ実際のご遺体で学習するのか疑問に思っていました。しかし、実際に解剖を始めてみると、教科書やアトラスで理解した気になっていた構造を実際の体に見出すことはとても難しかったです。教科書の図のようにはっきりした境目は無く、複雑で、個人差も多く、難解そのものでした。なぜ今の時代まで解剖が必須の授業であるかやっとわかりました。

改めて、忘れられない貴重な学びと経験をさせていただきありがとうございました。

解剖学実習を通して

歯学部歯学科二年　関野　碧海

初めに、献体してくださった方々とそのご遺族の方々に心より感謝申し上げます。この人体解剖学実習を通して様々なもの得ることができました。

現在行っている医学の勉強はこの実習を除くとほとんどが座学であり、ただ知識として人体の構造や機能を暗記する学習にとどまってしまっていました。しかし、実習のための徹底的な予習や、実際に自分の目で構造を見たりすることでそれぞれが持つ意味について考えるようになりました。ほとんどの構造は教科書通りには存在しておらず、なぜ違いが生まれるのかを考えることによってより深く構造の意味を知ることができたほか、ご遺体の方の人生が垣間見えたような気がしました。また、学習に対する姿勢だけでなく医療人としての自覚も芽生えたと思います。今までは医学に少し詳しい大学生というような感覚でしたが、解剖学実習をやらせていただいてからは医学に本気で向き合うようになりました。

立派な歯科医師になることが、献体してくださった方々やそのご遺族の方々に対しての最大の恩返しになると信じて、これからの勉強においても日々本気で取り組んでいきたいと思います。本当にありがとうございました。

解剖実習を通して得られたもの

歯学部歯学科二年　青山 裕太郎

人体解剖実習を通じて、献体してくださった方々に心からの感謝を捧げたいと思います。

私たちは実際の人の体を通して貴重な経験及び知識を得ることができました。解剖実習の最初の黙祷から感謝の気持ちと敬意を忘れずに、実習に臨みました。初めて解剖するときは、正直、緊張と不安でいっぱいでした。ご遺体を、メスを用いて解剖するということは、これまで経験したことがなく、初めは尻込みをしてしまいました。しかし、教員や班員たちと協力し、実習を進めることで、緊張が和らぐと共に自信を持つことができ、次第に臓器や組織の構造に興味を持つことができました。

実習を通して、多くの有意義な経験を得られました。解剖学の教科書だけでは得られないような臓器の実際の大きさや位置関係を視覚的に理解することができました。一人一人異なる構造を観察することはとても有意義でした。解剖実習を通して医療の世界への理解が深まりました。医療における解剖学の重要性を感じることができ、自分の進むべき道が明確になりました。感謝の心を胸に、これからも医学の道を進んでいきたいと強く思っています。

解剖学実習を通して

歯学部歯学科二年　鈴木 麻弘

初めに、献体してくださった方ならびに献体に理解を示し協力してくださったご遺族の方に心より感謝申し上げます。おそらく実際に全身の人体の構造を直接見ることができるのはこの解剖学実習のみでありとても貴重な経験をさせていただきました。

解剖学実習を行うにあたって座学を行った際には教科書や資料では分かりやすく解剖されているものが載っており、人体の構造について理解できた気になっていました。しかし自分の手で解剖を行っていく中で、血管の走り方や位置関係等といったものについてより深く理解することができ、さらには個人によって異なるものであり、とても複雑であることを実感することができました。

この解剖学実習を通して自分が医療に携わる人間になるという自覚が芽生え、さらには医療というものは患者一人一人にあった治療や対応を行う必要があることを感じました。

今や口腔状態は全身の疾患に影響を与えるといわれています。そのため歯科医師でも全身の関係について理解していることが必須となってきます。この経験は間違いなく私たちにとって貴重な経験です。感謝の気持ちを忘れずこれからも学業に励んでいきたいと思います。

解剖実習を終えて

歯学部歯学科二年　福島　絵梨

約三ヶ月の解剖実習を終えて、歯学部生として大きく成長できたと思う。解剖初日、期待と不安と緊張でドキドキしながら解剖室に入った瞬間が鮮明に自分の中に刻まれている。そこから一日に何時間も集中力を保ったまま細かい作業を続けてきた。解剖実習といえば、医学部生が、人体の構造を理解し、将来、治療をできるようにするために行われているものだと思っていた。もちろん、将来私たち歯学部生が足や手の治療をすることはない。しかし、頭頸部につながる様々な血管、器官、神経があり、それらを熟知した上で歯の治療に臨まなくてはならないということを思い知った。また実習を通して、歯学部生が命に関わる職業なのだということを強く身に染みて感じた。

約三ヶ月の解剖実習を通して、ご献体してくださった方の期待に応えられるよう、精一杯猛進した。しかし、教科書で学ぶのとは違い、正解がないものでもあること、それが医療であるということを痛感した。

この三ヶ月の学びを活かし、歯学生として精進していきたい。ありがとうございました。

コロナ禍をかいくぐってきた学生達の感想文を読んで

５４８２　広田　順子

今年も編集委員の役得で、解剖実習を経験した学生達の感想文を読ませていただく機会に恵まれました。

選出された感想文だけでなく、選ばれなかった感想文にも心打たれる表現が見受けられ、そのままにしてしまうのは惜しい気がして、これを書かせていただくことにしました。

全体を通して感じたのは、今年の学生の表現はおしなべて”大らか“だったということです。

本来であれば、より深く近しい人間関係を築いていくべき青春の大事な時期を、コロナ禍によるコミュニケーションの制限によって封じられた彼らです。

他者との関係を築けなかった影響は、もっと幼い世代におけるコミュニケーション能力の遅れとして報道されていますが、彼らの世代も同じように、大きな何かを学ばずに通過してしまったのではないかと案じていました。そんな彼らが解剖を経験した時、どんな感情を抱くのか、興味を持って読ませていただきました。

※「」（カギカッコ）の中は、学生の感想文の表現そのままに、全体の印象をまとめさせていただきます。

まず、解剖実習に入る前の彼らは十分に解剖学を学んでいます。図で見て、文章でも確認し、内臓も神経も血管もどこにあるかを覚えています。ただ、ある意味それで十分に分かったつもりでいるのです。

一方で「あまりの学習量の多さに追われるがあまり、医学と生身の人間を結び付けて考えるのがなかなか難しい」状況にあるとも言えます。

その彼らがご献体を前にした時、「一生忘れない緊張感」のあまり「メスのハンドルを握りこんだまま時間だけが過ぎていき」、「将来医師として人の命を預かる仕事をするという自覚やその意味を理解しきれていなかったと」実感するのです。

図解ではわからない「実際の色や質感」を自らの手で感じ、「自分がこれまでしてきた学習はなんと不十分であったことか」と打ちひしがれます。

何しろ人の身体は「教科書通りの構造をしていることはむしろ稀」であり「学んだ位置にあるべき部位が見当たらない事や、別の位置にあることが当たり前」であることを目の当たりにします。「主要な臓器や組織の構造でさえすぐに同定できなかったことに衝撃を受け」「表層にあると思っていたものが、実際には想像していたよりも奥深くにある」とか「脂肪が目的の構造を覆い隠してしまって」いたり「血管や神経の走行が異なっており、教科書よりはるかに複雑で個性的」なことを初めて知ります。

ある象徴的な文章を書いた学生がいました。「図や写真で見ていた人間の構造と、実際に見た人間の構造は一見違うように見えました。それでも探していた構造を見つけ出した時には、確かに写真で見たものと同じ構造をしていました」というものです。解説がないと何のことやら分からないと思うのですが、これは、まさに彼が〝解剖学を自分のものにした〟記念すべき瞬間であったのです！

別の例にたとえるならば、英語が堪能であれば、相手が多少訛っていても早口でも内容が理解できますが、英語の初学者にはネイティブの英語は聞き取れないようなものです。

彼はこの瞬間、人体の構造についての目が開かれ、その開かれた目で見てみると、そこには彼が見つけ出すのを待っていたものが既にあったのです。

こうして人体を〝再発見〟する喜びを知った彼らは、「予習・復習に工夫をし、周辺構造も把握することで標的のものを探す糸口を複数確保してから挑むようにしました」と、さながら難攻不落の登山なみの装備を固めていきます。そうやって挑んだ実習で「あらかじめ学習していた構造が目の前に現れた時の感動や、想像もしていなかった異なる構造を観察できた」驚きに突き動かされ「気づけば休日も必死で勉強している自分がいました」と変わっていくのです。

全ての実習が終わる頃には「人体の構造に正解はない。顔が違うように、体の中も一人一人違う」「実際に生きていた人なのだな」「その方の人生が形成してきた構造や手ごたえなのだ」と、体の構造の美しさや献体してくださった方の人生に思いを馳せることになります。

「私たちが対面するのは、図式ではなく、人だったのです。すべての構造が密接に関わり合い、一人の人間を形作って」いると実感し「医師の仕事が命に直結することを再認識」するに至ります。

そして、ふと先達の偉大さに気づきます。「こんなに個人差があるにも関わらず、共通の術式があることを考えると、いかに過去の解剖実習や研究の積み重ねが医学の進歩に結び付いているかを実感」し「血管や神経を確認する過程で、このどれか一本でも傷つけると、患者の命を失うかもしれないという危機感を体験」「それだけで術後の体に障害が起きてしまうことを考えると、外科手術がどれだけ難しいか分かりました」と謙虚な気持ちを抱きます。

一方で、メスをはじめとした基本的な用具の使い方を覚えることも大きな経験であり「力加減次第で手術の出来が大きく変わる可能性がある」「細かい作業を長時間行う集中力を切らさないことが重要であ

る」「医学とは座学ではなく、実際に目で見て手を動かす実学である」と悟るほど、現役外科医との力量の差を実感します。

また、チームで行う実習で、自然と「チームワークの重要性」や「協調性」を養われていきます。これは、簡単そうでいて、コロナ禍を経験した彼らには意外と大きな試練だったのではないでしょうか。

打ちひしがれ、それでも懸命に立ち上がり、多くを学び、医師や歯科医師になる覚悟を改めて固めた彼らは「医療はある意味奇跡の連続なのかもしれませんが、医療者一人一人がベストを尽くすことで、その奇跡をより確実なものにしていけると信じる」までに成長します。

医学分野のクイズには何でも答えられるよ！的優等生であった彼らが医者・歯科医師の卵として生まれ変わったのです。

コロナ禍により、他人との関わりを禁じられた世代は、患者や仲間に対する配慮や信頼などの情を欠いているのではと心配していましたが、それは杞憂であったと分かりました。

この先の長い医療者としての道のりにおいても、どうかこの貴重な経験を原点として忘れず、良いお医者様になっていただきたいと思います。

《東京医科歯科大学献体の会会則》

（名称・事務所）

第一条　この会は、東京医科歯科大学献体の会（以下「本会」という）と称する。

第二条　本会の事務所は、東京医科歯科大学医学部に置く。

（目的・事業）

第三条　本会は、会員相互の親睦を図るとともに、医学及び歯学の発展と人類の福祉に貢献するために、会員の遺体を無条件、無報酬で東京医科歯科大学に寄贈することを目的とする。

第四条　本会は前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

(1) 篤志献体に関する広報活動
(2) 親睦会の開催
(3) 講演会及び集会の開催
(4) 会報の発行
(5) 献体者の慰霊
(6) その他本会の目的達成のため役員会において適当と認めた事項

（会員）

第五条　本会の会員は、第三条の目的に賛同し献体登録した者とする。ただし、この趣旨に反すること、又は本会の品位を著しく傷つける行為のあるときは、役員会において役員の三分の二以上の議決により、会員の登録を取り消すこともある。

第六条　本会に次の役員を置く。

(1) 会長
(2) 副会長　二名

(3) 理事　若干名
(4) 監事　二名

2. 理事となる者は、役員会で選考し、総会の承認を得る。
3. 理事の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。
4. 会長及び副会長は、理事の互選とする。
5. 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
6. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代行する。
7. 理事は、役員会を構成し、会務を遂行する。
8. 監事は会計を監査するほか、役員会に出席して意見を述べることができる。

（会議）
第七条　本会の会議は、総会及び役員会とする。
2. 総会は年一回開会し、会長がこれを招集し、その議長となる。
3. 総会においては、次の事項を審議する。
(1) 会の運営及び事業に関する事項
(2) 理事の承認
(3) その他の事項

第八条　役員会は、会長が必要と認めたとき随時開催し、次の事項について審議する。
(1) 会の運営及び事業計画
(2) 収支予算に関する事項
(3) 会の決算及び事業報告
(4) その他会長が必要と認めた事項
2. 役員会の議事は、出席者の過半数をもって議決する。

（顧問及び相談役）
第九条　本会に、顧問及び相談役を若干名置くことができる。
2. 顧問及び相談役は、学識経験者、理事退任者の中から理事会に諮り会長が委嘱し、必要に応じ理事会に出席し意見を述べる。

（会計）
第十条　本会の経費は、補助金、寄付金等をもってこれに当てる。
2. 会の会計年度は、四月一日から翌年の三月三十一日までとする。

（その他）
第十一条　本会則の改正は、総会の議を経て定める。

附　則
この会則は昭和五十九年四月二十一日から施行実施する。
この会則は昭和六十二年四月十八日一部改正実施する。
この会則は平成十四年四月一日より改正実施する。

《東京医科歯科大学献体の会役員》

会長	八一〇	佐藤達夫
副会長	二二七二	星野君枝
理事	九二二	宮内美栄子
理事	二七四二	片野尚子
理事	四五六二	飯田静夫
理事	四七八五	礒　秀夫

献体の会会報編集委員
五二三九　岡本祐子
五四八二　広田順子

《東京医科歯科大学からのお知らせ》

◎献体時のお引取り可能な範囲について

日頃より東京医科歯科大学の医学及び歯学教育ならびに篤志献体活動に対するご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

昨年の献体の会会報第四十八号よりお伝えしておりましたが、献体時のお引取りに伺うことのできる範囲（お迎え先）を、東京医科歯科大学より四十キロメートル程度以内を目安とさせていただいております。お引取りに伺うことのできる地域については左記の表の通りです。

東京都	東京二十三区、立川市、武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、西東京市、八王子市、昭島市、福生市、青梅市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町
神奈川県	横浜市、川崎市
千葉県	千葉市、市川市、船橋市、松戸市、野田市、習志野市、柏市、市原市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ケ谷市、浦安市、四街道市、印西市、白井市
埼玉県	さいたま市、川越市、川口市、所沢市、春日部市、狭山市、上尾市、草加市、越谷市、蕨市、戸田市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、八潮市、富士見市、三郷市、蓮田市、吉川市、ふじみ野市、白岡市、伊奈町、三芳町、宮代町、杉戸町、松伏町
茨城県	つくばみらい市、取手市、守谷市、利根町

したがって、お引越しなどによりお住まい（献体時のお迎え先）がこれらの地域よりも遠方となる可能性が高い場合には、お近くの大学の献体団体に転属していただくことをご検討いただきたくお願い申し上げます。お近くの献体団体につきましては、献体の会事務局よりご紹介させていただきます。しかしながら、お迎え先が範囲内の病院や施設、葬儀場などである場合にはお引取りできる場合がございます。ご不明な点がございましたら、献体の会事務局までお問い合わせください。

献体の会会員の皆様には、ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございません。東京医科歯科大学への献体をご希望いただいた、そのお気持ちは大変ありがたく、ここに改めて関係者一同より御礼申し上げます。何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

◎住所変更等の連絡のお願い

住所、氏名、電話番号、ご家族の連絡先等が変更になった方はできるだけ早く献体の会事務局まで、お電話または文書等によりご連絡お願いいたします。

会員ご本人様が前述のお引取り可能な地域よりも遠方へ住所を移される場合には、お近くの大学の献体団体をご紹介する場合がございます。お近くの献体団体につきましては、献体の会事務局より該当する献体団体をご紹介させていただきます。また、お亡くなりになった後に他の大学にご紹介することは、非常に難しいため、住所を移される場合には献体の会事務局にご相談いただきたいと思います。

皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◎献体手帳について

二〇二四年「献体手帳」をご希望の方は次の要領でお申し込みくださいますよう、よろしくお願いいたします。

「献体手帳の申し込み方法」

お名前・会員番号をご明記の上、送料として**九四円分の切手を同封**の上、**郵便**にてお申し込み下さい。お申し込みは、**お一人様一冊**とさせて頂きます。

なお、ご家族で会員の方が一緒に申し込まれる場合、**二冊分の送料は一四〇円**となります。三冊以上の方は事務室へお問い合わせ下さい。

※二〇二四年秋以降に予定されている郵便料金の改訂に伴い、料金改定後は献体手帳一冊につき、一一〇円分の切手をいただく予定をしております。

申込先

〒一一三―八五一九　東京都文京区湯島一―五―四五

東京医科歯科大学大学院　臨床解剖学分野内

「東京医科歯科大学献体の会」事務室

電話　〇三―五八〇三―五一四七

《会員のご家族へのお願い》

会員の方が亡くなられた時は、次の順序でご連絡と打ち合わせをお願い致します。

一、大学への電話連絡

◎平日　午前八：三〇～午後五：〇〇

①東京医科歯科大学献体事務局（直通）〇三・五八〇三・五一四七

②東京医科歯科大学（代表）〇三・三八一三・六一一一

平日の勤務時間内出来るだけの対応を致しておりますが、直接献体事務局に連絡をいただいた時、学内に出かけている場合がございます。その時には大学（代表）の電話交換手にその旨をお伝え下されば、こちらから再度ご連絡申し上げますので、ご遺族代表者の連絡先及び亡くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時をお知らせ下さい。よろしくお願い申し上げます。

◎夜間・土曜・日曜・祝祭日・年末年始

東京医科歯科大学（代表）〇三-三八一三-六一一一

夜間、土曜、日曜、祝祭日、年末年始などの場合は、大学の電話交換手にその旨お伝え下されば、担当者の携帯電話に連絡がつく態勢になっております。その際、亡くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時・連絡先・連絡者を必ずお知らせ下さい。担当者が学外におります場合には、東京医科歯科大学献体の会の会員であることをすぐには確認できませんので、ご連絡の前に会員であることを再度ご確認頂きますようお願い申し上げます。なお、迅速に対応できるような態勢をとってはおりますが、諸事情（電波受信の状態が悪いところにいる場合など）により担当者からの連絡が遅れることがございます。大学から、担当者へは連絡がつくまで対応いたしておりますので、ご容赦願います。

二、大学担当者との打ち合わせ

ご遺族の代表者は次のことを担当者と打ち合わせて下さい。

①大学がご遺体をお迎えにあがる日時

②大学がご遺体をお迎えにあがる場所（住所・電話番号）

③お棺持参の要否

④ご遺族代表者の氏名、住所、電話番号

⑤「解剖に関する遺族の承諾書」等の書類は、担当者が後日お送り致しますので、ご記入、ご捺印をお願い致します。

⑥その他…お通夜、告別式をなさる場合にはその日時・場所をお知らせ下さい。なお、ご遺体の移送は大学がお引き受けし、寝台自動車でお迎えに上がります。

三、ご家族に用意していただく書類

〇ご遺体移送のときに必要な書類

死亡診断書の写し　一通

・死亡診断書の写しをご用意下さい。ご遺体を寝台自動車で移送するとき必要になります。

〇後日、郵送していただく書類

埋葬・火葬許可証　一通

・埋葬・火葬許可証は担当医師の死亡診断書を添え「死亡届」を市区町村へ提出すると交付されます。

・なお、火葬予定場所には「渋谷区代々幡斎場」とご記入下さい。

※注意事項

次のような場合、献体をお断りすることがありますので、ご了承下さい。

①事故で亡くなられた場合（交通事故死、水死、焼死、災害死など）

②死亡後、時間が経過し発見が遅れた場合

③病理解剖や法医解剖によりご遺体にメスが入った場合

④大学から遠方で亡くなられた場合

⑤大学から遠方へ転居され、住所変更のご連絡がないまま転居先で亡くなられた場合

（④⑤につきまして、詳しくは《東京医科歯科大学からのお知らせ》をご覧ください）

⑥死亡後、臓器提供をされた場合

⑦重症感染症（新型コロナウイルス感染症を含む）に罹患し亡くなられた場合

右記に該当する可能性のある場合は、担当者にお知らせいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

《会報製作にあたって》

◎表紙の写真説明

東京の雪

歯学部歯学科五年　橋本　賢斗

「東京の雪」は江戸総鎮守神田明神の隨神門を雪とともに撮影した一枚です。

神田明神は七百三十年に創建されたと伝わる歴史ある神社であり、今に至る幾年の歳月の間も多くの武将、著名人、そして庶民に崇敬を受けてきました。商売繁盛・家族円満・縁結びにご利益があるとされ、年始は三十万人以上の参拝者でその年一番の賑わいを見せます。近年はその本来の神社としての伝統的姿とは裏腹に、アニメ等とのコラボやイベントも盛んに行う一面もあります。この伝統と現代のエンタメを融合させるアグレッシブな姿勢はさらに多くの日本人、そして外国人までをも魅了しています。

実は私自身も神田明神を聖地とし、コラボもしているあるアニメをきっかけに神田明神を知りました。初めて訪れた際に触れた建造物の伝統を感じさせる剛健さ、東京の真ん中にあるとは思えない落ち着く雰囲気は私を神田明神にはまらせていきました。私はいつしか暇があれば神田明神に赴き、心を安らげると共にその日の姿を写真に収めることが習慣となっていました。

撮影した日は約一年ぶりに東京では一時大雪警報が出たほどの降雪日でした。世間では交通機関の麻痺などが心配される中、私はこうしてはいられないと朝から意気揚々と家を飛び出し神田明神へ向かいました。辿り着くとそこには白い雪がはらはらと落ちる中で対照的な朱色をまとった隨神門が毅然と立ち、その絢爛さは筆舌のし難いものでした。冬の風物詩である雪を堪能すると共に、神田明神の良さを再認識したまたとない機会となりました。

コロナの感染対策もwithコロナへと政策は変化し、外出自粛は過去のものと社会もコロナ前の姿を取り戻しつつあります。せっかくの雪の降る日には一歩外に出て、いつもとは一風異なる街の風景を楽しんでみてはいかがでしょうか。

◎編集後記

今回の表紙は東京の雪。随神門に降りかかる大粒の雪は、まるで時代劇のワンシーンのよう。そういえば、映画『赤ひげ』（黒沢明監督、昭和四十年）にも、こんな雪の場面がありました。

道具袋を肩に引っかけ、降る雪をかわすように、足早にやってくる若い男に、左の店先から女が駆け寄り、番傘をさしかけます。「ちょいと、この傘、お持ちなさい。」「いや、どうせ濡れちまっているんだ」「でも身体に悪いから」一つの傘の下で、持ち手を渡す女と受け取る男。その目と目が合うやいなや、女は店へと走り去ります。

この運命の出会いで始まった悲しい恋の顛末を語るのは、むじな長屋で最期の時を迎えようとする車大工の佐八（山﨑努）。持っているものは貧しい者に分けてしまい、病気になって養生所で与えられる薬ですら、困っている病人に渡してしまう男。しかし、そんな仏の佐八ではなく、何もかも話して掛け値のない自分になって死にたいと言う男を大勢の住民が取り囲みます。その最前列には、小石川養生所の見習い医師・保本（加山雄三）の姿がありました。

つい先日まで、ここは自分のいる場所ではないと院長「赤ひげ」（三船敏郎）に反発し、私服で通していた保本でしたが、佐八の死を見届ける過程で、患者としてではなく、病を背負った人としての人生についても考えが及ぶようになります。病気の影に隠れている人間の恐ろしい不幸と、それに耐え続ける人間という存在への畏敬の念。「人間の一生で、臨終ほど荘厳なものはない」という赤ひげの言葉がよみがえります。翌日、保本はついに養生所の制服を着て現れます。

映画のラストシーンは養生所に戻る赤ひげの背を追う保本の姿です。目標とする師と学びの場を得た保本の顔は晴れやかです。その向こうには、うっすら雪を被った養生所の門が見えています。

ぜひ、改めて表紙から楽しんでいただけたらと存じます。

（片野尚子）

連絡先

発行　東京医科歯科大学献体の会
〒一一三―八五一九　東京都文京区湯島一―五―四五
電話　〇三（五八〇三）五一四七
ＦＡＸ　〇三（五八〇三）〇一一六

印刷所　小宮山印刷工業株式会社
〒一六二―〇八〇八　東京都新宿区天神町七八
電話　〇三―三二六〇―五二一一